



## 親鸞さまのお姿



「桑の木の火鉢」、当時の庶民の漢方では高血圧・中風よけに効くとされていた。  
「猫や狸・鹿の革」が敷物や杖に用いられているがこれらも当時の民衆が漢方として信じ用いたもの。

わたしのお寺には「親鸞さま」の肖像の大まな掛け軸があります。今でいう「印子」百六で員でおつとめしています。この報恩講ばかりはどんなに遠い村からも、また私のような平素ぶしんじんな者も、この日ばかりはお寺にあつまり法要に参加することになります。

お掃除を手伝ったり、「おとぎ」の準備をしたり、二・三日前から仏事・仏婦の人は大変です。

わたしはなにもお手伝いなどできんので、ただお参りしてお説教などを聞くだけですが、有り難いことに、お座敷の方に行つて、この寺伝來の「親鸞さまのお姿」に出会わせていたたすことです。

この親鸞さまの肖像画は「安城(あんじょう)の御影」といて、親鸞さまの直弟子(じし)の孫で三河の国「安城」というところの寺にいた専信という方が、親鸞さまに懇願して描いたものだそうです。聖人八十三歳のときのお姿と言つことです。

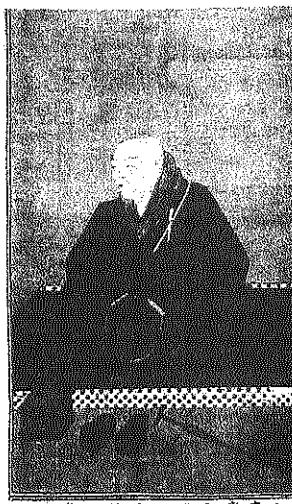
お顔だちは、なかなか厳しい面構え。身には黒い衣・袈裟や数珠をまとつてはいますが、一見、やや異様に感じられるものが目につきります。

草履・杖・敷物など普通の聖人高僧と言わる途次、信濃の善光寺の聖(ひじり)・寄付あつめの勧進(おきんじ)僧)をなさつていた。そのころの旅姿なのかもしれんなー」

「見られようにもこのお姿は高貴なお坊さんの姿ではない。しかしこの絵には、当時(京都へ帰られてから)の親鸞さまの心と生活が、実はみな、名もない「下賤な同朋」によって支えられていたといふことが、わたしには伺えるような気がして、有り難いのです。」

三月十四日 永井 五生さま  
五十八歳

親鸞さまは『唯信鈔』(聖人の先輩聖徒品の書)の「具縛(ぐばく)の凡夫・屠沽(よご)の下類」といふことばを解説して「屠は よろずの生きたり。これは商人(あきど)なり。これらを(世間では)下類と言うなり。かようの商人・獵師(さまでの者は、みな石・瓦・飛碟(つばさ)の如くなる我らなり。」。わたしの仲間などの如くなる我らなり。」。わたしを支えてくれた。「御同朋・御同行」。わたしを支えてくれた。大なる大事な方々なのだと言っておられます。私は、年に一度、親鸞さまにお会いできるのを、ことに年老いた今楽しみにしております。



## 春季研修会(観桜会)

### 一案内

実施日 平成22年4月10日(土曜日)

#### 第一部 グランドゴルフ大会(予定)

- 1:30 勝林寺集合
- 1:45 勝林寺出發  
(場所のわかる方は現地に直接お越しください。
- 2:00 ゲーム開始  
2~3ゲームします

会費: 無料

場所: 出石 いきいきドーム

出石町福住

#### 第二部 研修会・観桜会

- 4:30 受け付け
- 5:00 おつとめ・法話
- 6:00 観桜懇親会
- 8:00 終了

#### 会費:

- 男・ 1,500円
- 女・ 1,300円

<<参加申込先: 仏婦評議委員>>

ふるつてご参加ください!